

クラブ通信 Vol.119

2018年4月



ご意見・ご要望をお寄せ下さい。

http://osaka.seikatsclub.coop/

TEL. 072-641-5547

発行/生活クラブ生協大阪理事会 編集/広報委員会 茨木市清水1丁目21番4号



2月度実績報告(2/21～2/2/20)			
◎組合員数	18,056人	(2/20現在)	
加入	137人		
脱退	168人		
◎供給高	273,578千円	(計画比)	95.3%
		(前年比)	104.0%
一人当たり利用高	15,134円	(前年比)	101.2%

生活クラブ生協大阪は50周年を迎えます



祝 50周年!



組合員の皆さん！
おかげの組合員が暮らしをよりよくしたい、住みやすい地域にしていきたい、と活動してきたことが50年も続いていることをお祝いしましょう！

50周年を記念する様々なキャンペーンを行います。生活クラブ生協大阪の歴史は、東部生協と西部生協がアルファコープにおおさかになり、千里山生協と共に生活クラブ連合会に加入し、その翌年合併する、という大きな志のために一致点を見出し力を合わせてきた歴史でもあります。そうすることで仲間を増やし、利用結果と運動への参加

を進めることによって、住みやすい社会の実現へと近づけてきました。

50年の歴史を振り返ると、いつの時代も社会問題を解決するために生産者と共に協同し、いきいき活動してきた組合員の姿が浮かび上がります。「組合員が出資・利用・運営する」という内実が確立せず、経営的に安定しない時代がありました。「暮らしの課題」として灯油の安定確保など、生活そのものを安定させなければならなかった時代がありました。

そんな時代を経て、外からは見えないよう操作されている、また見なくても暮らしていける問題へと「暮らしの課題」が変化してきました。しかし、知らないで暮らしていく恐ろしさに気付いた組合員が学び、どのように行動すれば解決につながる

のかを自ら実践しながら伝える活動を続けてきて今に至ります。

今、サステイナブルな(持続可能な)社会を実現するために

FOOD (生産者と共に力を合わせての安全な食料の確保)

ENERGY (次の世代も安心して暮らすことのできる環境作り)

CARE (少子高齢化や人と人のつながりの希薄さの問題に対して、たすけあう地域社会づくり)

を意味するFECという自給ネットワーク作りに取り組んでいます。

生活に必要な材や仕組みが生活クラブ以外でもたくさんあります。しかし、何が大切が見えにくくなっている今こそ、50年という節目の時に生活クラブ生協大阪の価値を歴史と共に考えてみましょう。

そして、次世代を担う子どもたちのためにどんな行動ができるのか？新しい気づきを見つめる50年目にしていきましょう。(理事長 浅井由起子)

50周年記念キャンペーンお知らせ第一弾！

詳細は随時お知らせいたします！

全品5%OFF		50周年記念企画 生活クラス 生協フェスタ・2018.11.25(日)	消費材のつかみ取りなど、盛り上がる企画を予定しています。組合員でない友人を誘った人には大きなプレゼントがあるかも。
家族で餃子を手作りしよう！	豚ミンチ注文者へ餃子の皮スレセント	50周年にあわせた広報の実施	交通広告(駅ポスター、電車車内の広告など)やWEB広告等を行い、50周年を地域に広くアピールします。
555円調味料セット	バッグ入りで数種の調味料セットが入っています。	記念レセプションの開催 (講演付き) 2019.03.02(土)	組合員や職員とこの50周年を祝い、また関係各位(生産者、友誼生協、団体)への感謝とともに連帯を更に強める契機とします。
特別チケット	10,000円で11,000円分のチケット購入		
電気とお米でコラボキャンペーン	新契約者にはお米券やチケットの還元がある場合があります。		
50周年記念誌発行	今までの活動の歴史とこれから目指すことがわかります。ぜひ読んでください。		

＜エコロ共済＞

…住みやすいと感じる地域づくり

エコロ共済は、旧アルファコープ「ふれあいネット」と旧千里山生協の「ほほえみの会」をもとにスタートした、生活クラブ生協大阪独自のシステムです。

これまで、加入者が増えることで、託児活動の費用の全額負担、健康診断の補助、リーディングサービスなど制度内容を充実しました。暮らしのたすけあいでは、連携する福祉団体が3団体から4団体に増え、より近い地域の中でのたすけあいができるようになりました。また、子育てひろば（現在4か所）の助成、エコロサークルやエコロ講座の助成により、組合員の生活をよりよくし地域の人たちとのつながりを広げています。

エコロ共済に加入の組合員が毎月100円の掛け金を財源に、助け合いの内容を広げると共に、活動する組合員を支援し、共済の仕組みをさらに充実させ住みやすいと感じる地域づくりをめざしていきます。（エコロ事務局 丹羽洋子）



＜食肉センター＞

…ごまかしのない肉を手に入れるために

千里山生協が食肉処理加工を始めたのは1970年からです。当時肉は複雑怪奇な流通を経ており、私たちの手に届く肉は鮮度や中身に大きな問題がありました。また、肉の販売方法も上肉・中肉・並肉ぐらいの表示しかなく中身は全く分かりませんでした。因みに今では当たり前の部位別表示を日本で初めて行ったのは千里山生協です。生産者指定が出来るようになるまでにはかなりの時間がかかっていましたが、一環して私たちの肉は流通がはっきりしていること、ごまかしのないことは変わりません。

昨年9月に別会社になりましたが生協が自前で加工場を持っているのはたくさんある生協の中で生活クラブ生協大阪だけです。



（豊中部地区 姫野由好）

生活クラブ生協大阪

＜牛乳＞

…びん牛乳のこだわり



私たちのパステライズド牛乳は、72℃15秒殺菌で自然に近いおいしさ、また母牛には遺伝子組み換えでないというよろこしを与えている、など優れたものです。しかしその中身と同じくらい素晴らしいのは、容器が「びん」だということです。飲み終わればびんを洗って返し、工場で牛乳が詰められてまた私たちのところに配達されてくる。これを30回以上繰り返すことができるのです。ですからびんは大切に扱ってくださいね。途中で割れてしまっただけが台無しですから。それにびんを洗って配達便で返すのは、紙パックをすすいで開いて回収所に持っていくよりずっと簡単ですよ。

リユースびん入りの消費材を使えば、あなたも私ともみ削減の名人です。（山田地区 小松原千恵）



＜共同購入について＞

…地域での人と人とのつながり

1978年頃、子どもたちに安心なものをと千里山生協に加入。配達条件は卵13kgが分けられるグループを作る事。当時市販の卵は鮮度や採卵日も不明。団地の皆さんに声をかけ仲間を11名程集め、新鮮で採卵日の明確な卵を手に入れました。

注文は回覧、請求・集金もグループの当番が行いグループ会議を月1回開催。近隣12グループ約150名の地区を作り、運営委員を選出、商品の担当を決め、拡大予算を立て地区を広げていきました。地区では商品の学習や生産者交流を行い、商品に対しての知識や思い入れも培われました。自分達の望む商品を手に入れるには生産者と約束した量を守る必要があります。特に産直青果は地区ごとに課題数を設定し、グループや組合員に呼びかけました。

共同購入は地域での人と人との繋がりで。その頃の組合員とは今も繋がっていて、老後も皆で助け合っているように話しています。

（新千里南部地区 小早川まさ子）

はじまりはここから・・・

50年

のあゆみ

関わってきた方々の熱い思い・・・

＜生活クラブでんき＞

…原発のない未来のために

「原発は要らない!」でも、「何も出来ない」と思っている人へ。私たちには「生活クラブでんき」があります。生活クラブ生協では、主に自然エネルギーで作った電気の共同購入が2年前から始まり、今では全国で1万人以上の組合員が契約して、「原発は要らない」という意思表示をしています。

福島事故以来、原発は嫌だ、と感じている組合員はたくさんいる筈です。原発を動かせば子どもたちへ負の遺産を増やすばかりです。子どもたちに託す未来を考え、今一人ひとりができることに取り組む、その簡単な第一歩になります。まずは、知ってください。そして、仲間になりましょう!

（自然エネルギー部会 奥村芳実）

＜フェスタ＞

…仲間の輪を広げること

「合成洗剤は止めよう」「健康な土壌で育った野菜を食べよう」と地域に発信し続けてきた。工場廃液や合成洗剤で河川は汚濁し、毒性物質の複合がもたらす汚染が小説にもなった頃から千里南公園で生協まつりが始まった。

『本物の牛乳が欲しい』と仲間の輪を広げてきた事が原点である。消費者にとって便利で安いものは魅力的だ。しかし、今もこれからもみんなが心地よく生きていくために「ちょっと考えてみませんか?」と投げかけることが大切である。2015年からは、近隣に若い世代がたくさん住んでいる鶴見緑地公園内に開催場所を変えた。

いっしょに考えて行動する仲間を増やすために、これからも発信し続けていきたい。

（旭地区 田中富久子）



＜産直＞

…きずいてきた信頼関係

伊賀有機農産供給センターとお付き合いが始まったのは、20数年前。

当時はレース状の葉物やスが入ったカブが届いた。「無農薬だから。生き物だから当たり前」と言う生産者と何度も話し合った。「組合員はお金を支払うんです。その価値のある野菜が欲しい」と安全・安心で納得できる野菜を食べたいと毎週のように伊賀の地に通った。「虫や鳥は先住者、僕らは後から来た人やから…」と自然を愛する生産者の姿勢は今でもずっと変わっていない。

私たち組合員が決めた基準を守り栽培する生産者、約束した量の生産物をきっちりと引き取る組合員、お互いがこの約束を守ることによって信頼関係を築き、現在に至っている。

（牧野地区 青木雅子）



＜地区活動＞

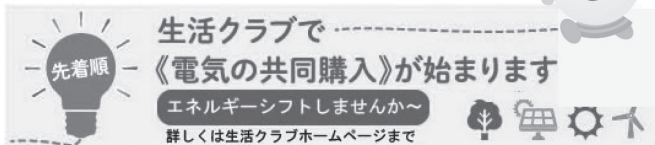
…いちばん近くにある活動の場



生活クラブ生協大阪では活動方針を立て、10のThink&Actのもとに様々な組合員活動を行っています。最も組合員に近く、きめ細かくで着実な動きができるのは地区の活動であると思います。

ブロックでの利用結集やエコロ共済推進の取り組みに加え、委員自身が知りたい・伝えたいことをテーマに学習会を企画したり、新規組合員のフォローを目的とした場を設ける等、どんな活動をするかを各地区運営委員会で話し合い企画・実行・振り返りを行なっています。

大阪の67地区による活動の積み重ねにより利用する仲間が増え、掲げるビジョンに一步步近づいていきます。成果を共有し、元気に楽しく有意義な活動を続けていきたいです。（香里ブロック担当理事 田上綾子）



エッコロ共済 4月

会員数			9,525人			
給付状況	消費材の破損		2件	健康診断補助		9件
	集団 託児	地区	35人	暮らしの たすけあい	日常的な 助け合い	33件
		全体	3人		暮らしの サポート	33時間
エッコロ事務局 ☎/FAX 072-641-5811 月・火・木 (10時～15時)						

入学お祝い申請についてのお知らせ

2018年4月に小学校に入学するお子さんをもつエッコロ共済加入者で、消費材を利用している組合員が対象です。

4/9・4/16週発行のエッコロ委員会ニュース「たすけあい」でお知らせします。

締切日は、5/25です。締切日までに必ず申請書を提出してください。

※エッコロ共済加入者は、月末に発行される消費材請求書にエッコロ掛け金100円の記載があります。ご確認ください。

エッコロ共済に加入ご希望の方はその旨を配達担当者にお伝えください。

生活と自治

■2017年11月号 「時のかたち 機能性表示食品 生鮮食品第1号の役目と悩み」

科学的根拠があいまいな健康食品の氾濫を防ぐ目的で始まった「機能性表示」。昨年9月までに加工品を中心に1055品目が市場に出回っているという。生鮮食品は「モヤシの大豆イソフラボン」と「温州みかんのβ-クリプトキサンチン」の2品目、モヤシ価格やみかん消費量の低迷に対して消費拡大を狙ったものらしい。「サプリより生鮮素材」「菓子や飲料ではなくデザートには国産果物を」という生産者からの提案と言うが、機能重視はサプリと同じ。複雑な読後感の残る記事だった。

(阿倍野地区 小出堯子)

第40回「生活クラブ
生協フェスタ」は、
今年も鶴見緑地公園で
開催されます！

開催まで
あと7か月

日時:11月25日(日)
場所:ハナミズキホール
(花博記念公園鶴見緑地内)

生活クラブ生協
フェスタ開催予告!

3年前の転居時、アレルギー持ちの子どものために体に余計なものを入れたくないと、安全・安心な食材を扱う生協を探していました。そんな時に貰った、豚ミンチのおいしさに加わったのでした。

加入後、生産者の顔が見える安心感とともに、手間や苦勞が良くわかり、食材を一層大切に、余すことなく扱うようになりました。すると、可食部が増え自然とゴミが減ったのです。また、色々なイベントで勉強することで、人にも環境にも優しい暮らしができるようになってきています。



ティータイム

Tea Time



「新たな一歩のきっかけに」

誰かの暮らしをよりよくするお手伝いが、自分にもできないだろうか。組合員自身が生協を作っているということを知り、私はそのように考え始めました。

委員会活動への参加、エッコロ講座との出会いを経て、アトピー・アレルギーの子(アレっ子)を持つママ向けのお茶会や料理教室開催などアレっ子のサポート活動へと私自身の生活・活動の幅が広がりました。

このように、生活クラブは私の暮らしを変えてくれたきっかけと機会を与えてくれました。

(城東地区 大橋知子)

理事会報告

3月6日

大阪市中央公会堂

- 17年度活動報告案、18年度活動方針案について討議決定
- 子育てひろばサポーター部会お出かけひろば「高槻体験田でのいちご狩り」活動計画を決定
- 環境部会「シャボン玉フオーラム in 北海道」代表派遣のためのカンパ実施を決定
- 生活クラブ生協フェスタ実行委員会立ち上げを決定
- 住所不明組合員の脱退手続き(みなし脱退手続き)の実施を決定
- 共済冬キャンペーン中間報告を確認

編集後記

瀬の浦く尾道くしまなみ海道泊二日の旅に行ってきた。常夜燈で有名になった瀬の浦の古い町並みは、ちょうどひな祭。年代物の雛飾りが店の入り口や土間などに飾られていた。映画の舞台としても知られる尾道は、海も山も島も、狭い中にギュッと詰め込まれた風景がある街。坂の上から見下ろす風景は格別だった。四国までの島々を橋で繋いだしまなみ海道では、特産の柑橘類を味わい、重要文化財にも指定された神社や寺を巡り、文字通りしまなみをドライブしながら堪能できた。島国日本の良いところが凝縮された場所、のんびり、穏やかに過ごせた。